

こぶりにて理屈のみを并ぶる不經濟の主婦なり、女
學校出の嫁入口少なりしは、主に之に原因したる
ものとぞ知られし。

▲言ふこと、強ちあしとにわらず、たい行はずし
て言ふことのみをする謹しむべし。先づ行ふこと
を力めよ。兎角は我國、言の人多くして行の人少
きか如し。家庭に於ても、學校に於ても、子供の

教育には、特に此點に心せんこと別して必要なり

▲支那にては、少言沈黙最妙といひ、西洋にては
語るは銀、黙るは金 Roden ist Silber, Schweigen
ist Goldと言ふ、共に不言實行を意味するなり

▲男子にて獨身生活の樂を語る人多し。げにや、
獨立獨歩、俯仰自由なること、獨身生活の如きは

あらじ。たい老年、幾星霜を経たる後始めて其生
活の餘りに寂寥に、餘りに單純なりしことを感ず

るに至るべし。

本篇もと、題して家庭閑話といひ、その子とい
ふ名の下に、家庭に關するくさくを論じもし
評しもせりしが、本號よりは題も改めて忙中閑
語とし、名前も其子と改め侍り、因に、その子
は實名にはわらず、若し實名その子といふ人御
座さんとも、そは本篇のその子其子とは全く
關はる所なきことを、附け加へ置く。

雜 報

編輯局より

▲新年の御吉慶千里同風、先づは目出度申納め候
まこと、歲月は流るゝが如く、何かと申す中に、
本誌も、こゝに滿三歳の齡を重ね候、お蔭により

何の障りもなしに、生長は致し候もの、免角、目覺ましき發達進歩も致し兼ね候事、願ひて、忝怩たらざるを得ず、何れは、讀者諸媛の御協力を以て大に活躍致したくと存じ候。

▲就きては、本年第一號よりは、多少の體裁を改め候。ほんの目前の事に候へども、餘りに舊態の儘なるも如何と、年の改まると共に、かくは致し候。従つて、材料の選擇と排列にも意を用ゐて、多少拾拾致し候、彙報欄の如き、必要は必要に候へども、從來、本誌に限らず、何れの雜誌も、多くは新聞紙の再録に過ぎず候故、本號よりは、特に際立ちて、之はと申す程のものでなくては、掲載致さざる積りに御座候。

▲次號に於ける分の豫告し得べきものは、凡そ左の如くに候

家庭生活と教育……………安井 哲子

怒りの情……………松本孝次郎

玩具に付きて……………松村 久子

懇和會……………田中 文子

黒澤登幾子傳……………下村三四吉

幼稚園案内……………東 基吉

割烹十二ヶ月……………石井泰次郎

包厨探險……………や、て

其他に金玉の文字、錦鏢に加ふるに花を以てすべく、眞に我國、家庭教育、女子教育の伴侶たることを期すべくと存じ候 敬具

●日本女子と蒙古王の家庭教師 清國の女子教育漸く萌芽を生ずると共に、女教師を我邦に聘する者多きは、最も喜ぶべき現象なるが、今や彼の

賢明有爲を以て聞えたる蒙古喀拉沁王の如きも、亦其家庭教師として、本邦女子を招聘したり、其人を誰とか爲す、即ち河原操子女史是なり、女史は信州松本の人にして、其父は福島少將とも、懇意の間柄と聞えしが、女史は初め女子高等師範學校に學び、三年級にして病の爲に退學し、其後は下田歌子女史に従學しけり、業成りて横濱の大同學校に聘せられ、支那人の女生徒を教授し居けるが、昨年五月と云ふに、其師下田女史の推薦に因り、清國上海の城内に設けられし、務本女學堂の教師と爲りて渡清しつ、時に年二十五にして、才貌雙絶の女史は、勇氣さへ尋常女流に越えて男々しく、上海着後は日本旅館にだに入らずして、直に學堂に關係ある支那人の家に止宿し、一週間はかりにして、遂に城内の同學堂内に移り住みて、

熱心に教鞭を執れり、當時は惡疫流行して、殊に不潔を極めたる城内には、一日百餘の棺桶を出すに際して、年尙少き女子の平然として其職に盡せるは、鬚眉の徒にも得易からざるなるべし、斯くて一年の約束なりければ、今年五月にて満期と爲らんとせし折節、喀拉沁王より女教師聘請のことを北京なる日本公使に託せるより、公使は上海なる小田切總領事に照會ありて、總領事は女史に相談せしに、女史は快然として之を諾せるにぞ、總領事も其健氣なるに驚服せりとかや、左もあるべし清國內にても、開港場附近ならば兎も角も、北邊路遠く塞外雲迷ひて天飛ぶ鴈の音にのみ聞く蒙古の地に、年少く眉目麗はしき女子の、其天職の爲に勇往せんとするを聞きては、誰が其勇と誠とに驚き且服せざらんや、女子は其後三箇月許の間は

彼の電奏事件に有名なりし經元珊氏の宅に寓して支那語を研究しつゝ、喀拉沁王より使者來るを待ち去月二十三日迎接の蒙古官吏と共に、上海を發して北行の途に就けりと云ふ（大阪毎日）

●高等女學校に幼稚園を附設せしむる建議
客冬開會せられし高等教育會議に於て、遺憾にも非決せられしとはいへ、一議員によりて、本題の提出を見たり、時勢は漸く幼稚園の必要を認むるに至りたるか如し。

建議案第九

高等女學校に幼稚園を附設せしむること但止むを得ざる事情ある時は文部大臣の許可を受けて附設せざるを得しむること

理由

高等女學校の生徒は他日中等以上の家庭にあつて兒童教養の任

を負ふべきものなれば兒童保育に關する知識を有すること特に必要なり故に高等女學校に於て現に保育法を教授しつゝ、あり盛るに保育は元と一の技術なれば單に保育に關する知識を授くるのみにては充分と云ふべからず更に實地に就て保育の方法に習熟せしめざるべからず高等女學校に幼稚園を附設し高等女學校生徒をして保育の方法を實習せしめんとする所以なり

提出者 溝淵進 駒

賛成者 伊藤貞勝

森本清藏

篠田利英

●男女交際論 先月の六合雜誌に、男女の交際

と題して、左の如く見えたり

男女の交際を盛んならしむるとが、一には結婚難を解き、二には青年の品行を矯正し、三には女子の思想を發達せしむる等様々の利益あるとは云ふまでもない然るに進んで青年男女を交際せしむるの中心となる先輩のないのは何故ぞ。

男女の交際を西洋の如く盛んならしむべしとの論は随分古くからある論で、中頃消へて居つたが、近頃又喧ましく叫ばれて來た、が相違らず叫ぶのみで、コレが實行の責任を負ふものがない、コレ何故ぞ。

一口に云ふと世間が恐ろしく、世間の口がウルサイからである。外の事とは違ひ、事女に關することとなると、日本の社會は極めて邪

推し、極めて氣を廻はし、又極めて惡口をたたくから、心には思ひながら何人も此の男女交際の獎勵と云ふには、指をよう染めないのである。

而し何事でも世間に誤解さるゝのを厭ふては出来ぬワケで、獨り此の事のみでないから、吾人は勇氣ある先輩中より、世の誤解を覺悟しつゝ、若かき男女の交際獎勵の任に當る人の出でんとを切望する。

若かき男女の間には若し正交なくんば必ず醜交あるべきものなり

兵庫縣通信

在攝津 通信員 平 岩 洋 洋

●尼崎婦人會 は慈善、教育、婦徳等の修養の目的を以て一昨々年尼崎町の有志者が組織したるものにして、先般舊藩主の別家櫻井忠剛氏の同町に移轉されしより、夫人豊子を會長に推したるところ、其後會員も増加し益事業を擴張するに由り現在の尼崎幼稚園を今后同會の附屬事業となし、尙一層其の規模を大きくする計畫なりとの事なる

が、同會本年秋季總會を二十二日(十一月)正午より同町善道寺にて開會し、餘興に狂言三曲活花等の催し有たり。

●音樂會 神戸市私立親和女學校にては、過日午後一時より同校に於て音樂會を催し、職員生徒の洋樂彈奏及生徒の唱歌等ありたり。

●孤兒院の新築設計 兼て御報導なしかきたる神戸孤兒院にては、八十有餘の可憐兒を教養しつゝありて、猶續々入院の申込あるに、其の院舎狹隘にして大に不便を感じつゝあるに由り、新築の設計あれど同院の積立金は敷地購入に充つるのみにして、家屋新築費の出所なく、勢之れを世の慈善家の寄附に仰がざるべからずして、大に世人の同情を求めつゝあり。

●面白き結婚 本縣下有馬郡名鹽地方にては實

に結婚の状態面白き風あり、其れは男女見合をなして后直ちに其の式を擧げずして、女子は暫く男子の家に毎夜毎夜通勤し、而して後女子妊娠すれば始めて婚姻式を擧ぐといふ、若し女子妊娠せざる時は何年間にても斯くなし居るといふ、中には妊娠せざるため又は男女不道徳のため時に破談になるも少からず、故に遠距離の結婚は男女通勤困難のため、極く近傍の村落にて行はるる由なり、斯の如き有様なれば一村擧げて親族關係を有するなり、尙ほかゝる土地には自然的男女婚姻の年齢は一般に早く、又右の影響として分家するものも多くなるべし、然るに、第一斯る土地に遺傳的病原だにあらんには、實に危憂のことといふべく、又分家の多くなることは其の土地に少なからざる生活上の問題に影響を及すべしとの事なり。

居所移轉 小生今般本縣下武庫郡魚崎裁縫學校内に移轉致したれば本會並に本會員諸君に御一報申上候(十二月九日通信)

家庭教育

松本孝次郎 講述

家庭教育にとりて参考とすべき著述は多くあるけれども未だ兒童心理の研究と連絡を保ちて家庭教育上の問題を論述したものは少ない様に考へるから此點に重きを置いて家庭教育に關係した著述を公にするつもりであるといふ著者の緒言で家庭教育叢書第一編として現はれたのが本書である。家庭と兒童、婦人と兒童、兒童の健康、兒童の情育、子供話に就きて兒童の賞罰、兒童の言語、兒童と遊戯家庭に於ける學齡兒童の衛生、家庭のため、家庭と青年、徳育に就きて、など、いふ題目の下に種々有益な参考になる是非共世の阿母さん方の心得られたい事が掲げられて居る。著者の如く身を兒童研究に委ねて居らるる心理學者の手に由て此類の書の成つたのは家庭教育の上から考へて誠に喜ぶべき事である。兒童學者は學者、兒童を實際に教育する阿母さんは阿母さんと別々に離れて居つては洵も十分の進歩は望まれぬので兒童學者は阿母さん方の理解する様に學理をも實際をも説き阿母さんは又熱心に學者の言ふ處に耳を傾げよく之を解して實行するといふ風になるさはじめて兩者協力で家庭教育が真に進むのであるが、本書は隨に此點に向つて貢獻する處が多いであらう。言文一致で平易に書かれて居るから何人にもよく分る。願はくは世の阿母さん方が

是非一本を座右に備へて一讀再讀して兒童教育に資せられたい。本書中兒童の健康に關する事は主として二ヶ處に掲げられて居るがもつと詳しく説かれたらば他の部分で精神的方面に多大の注意を與へて居らるゝのに對して今一層有益であつたらうと考へる。しかし一母子にそうまでもといふ事ならば別に此叢書の一編として主として身軀的方面に關する注意を集めたもの、出でん事を望む。されば本書と相並んで世の阿母さんの爲に與ふる利益はいかに大きいであらうか(定價五十錢、金昌堂)

會報

本會常會 舊臘十二日第二土曜日、華族女學校に於て、本會第卅七常會に兼ねて、會員の親睦を計り且つ此半日を樂しく過ごさんとの主意を以て、忘年の會を催うしぬ。集まる者、男女會員客員とも、合はせ七十名許り、野口幹事、司會の任に當りて、開會の主意を述ぶるや、中村主幹は、簡單に、會合の利益といふ意味にて演舌せられ、次に、ミセス、グリーン 伴奏の下に野口、田中、

松村、小關、山中諸氏の合唱は一同の喝采を拍したり、終りて、岸邊福雄氏は左の動議を提出す市内各區の相近き幼稚園は、互に一團體となりかくて、數團體出來たる後、各團體に於て、研究、實驗せられし事項を、交番に、本會に提出して、批評研究すること。

一同異議なく可決、但し實行の方法に付てきは、尙幹事に於て調査の上報告することとしたり。右終りて、懇親會に移りぬ。舞蹈するものあり、歌留多とるあり、ローンテニスを試みるあり、而して、其間に、三々五々うち連れて、食堂に趣けば、こゝには紅茶、團子、おすし、サンド井ツチ等の御馳走は設けられ居たり。

かくて、午後五時、夕陽の傾くと共に、散會し終りぬ

七〇	七〇	六〇	一〇	二〇	五〇	二〇	八〇	一一〇	一六〇	四〇	一一〇	六〇	五〇	五〇	四〇	一〇〇	一〇〇	六〇	六〇	四〇	六〇	六〇	
三六、六	三六、六	三六、一〇	三六、一二	三六、一一	三五、四	三六、九	三五、一二	三五、一二	三五、七	三五、七	三五、一二	三五、六	三六、六	三六、六	三六、七	三六、三	三四、一	三六、一〇	三六、一一	三六、一一	三六、一一	三六、一〇	三六、一〇
三六、二	三六、二	三七、三	三七、三	三七、四	三五、八	三六、一〇	三六、一〇	三六、一〇	三六、一〇	三六、一〇	三五、一一	三六、一〇	三六、一〇	三六、一〇	三六、一〇	三六、一〇	三七、七	三七、七	三七、四	三七、四	三七、二	三七、三	三七、三

山田竹	高木ます	吉田はる	新免義勇	神通せき	森川清	佐野とく	中桐確太郎	井上千代	岡山秀吉	柴田ちた	石川ふき	櫻井光華	加藤たけ	鈴木重	石井國次	手塚不二夫	岩川ひさ	平野みよ	高野わか	谷河くま	湯河さだ	成瀬きよ	山崎いよ
-----	------	------	------	------	-----	------	-------	------	------	------	------	------	------	-----	------	-------	------	------	------	------	------	------	------

六〇 三六、七—三六、二

古田 重

會費御納附につきて

在京會員の會費は従前の通り御便宜上
現金又は爲替にて御納め下され度く、
未納の分は東京集金社を以て集金いた
させ候に付き右御承知願上候。但し
フレーベル會及會計幹事の印章なき受
取證は一切無効と御承知下され度候。

フレーベル會